



令和5年度の取組概要報告

自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX

Teacher Education Program for the Transformation
-アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発-

令和6年2月29日

兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム

国立大学法人 兵庫教育大学

自律した学習者を育てる教師の養成プログラム

－アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発－

TEX Teacher Education program
for the Transformation

(1) 先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

① 新・教員養成スタンダードの策定

新・兵庫教育大学教員養成スタンダード
▶ e-ポートフォリオや資質・能力ごとの GPA による可視化システム

② 先導的・革新的教職科目の開発

新・スタンダードの項目に即したテーマ設定で教職科目体系を精緻化＋フレキシブルな改善システム

- テーマ1 学習者中心のデザイン、ファシリテーターとしての教師の役割、インクルーシブ教育
- テーマ2 EdTech、教育データの利活用およびSTEAM教育
- テーマ3 教師の連携・協働による教育体制の構築のための教育
- テーマ4 教職大学院共通5領域に加える新たな領域科目の開発とその汎用化

(2) 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

**兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学
コンソーシアム**

- ▶ アジャイル型手法とリンクした社会的インパクト評価ツールの開発
- ▶ 全国ネットワークによる成果発信 (教員養成スタンダード・カリキュラム・FD)

(3) 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

- ▶ 5年一貫による教員養成など教員養成の制度改革への貢献
- ▶ 教育大学(学部)における専門職養成機能の強化

学生

- ▶ 学習者観・学習観の転換
- ▶ インクルーシブ教育の理解
- ▶ EdTechが活用できる
- ▶ 教育データが活用できる
- ▶ 教員採用試験受験率の向上

新任教師

- ▶ 学習者中心の授業ができる
- ▶ インクルーシブ教育が実践できる
- ▶ EdTechが活用できる
- ▶ 教育データに関する実務ができる
- ▶ STEAM教育が実践できる

自律した学習者を育てる教師

- ▶ 児童・生徒の認知・非認知能力の向上を支援する教師
- ▶ カリキュラム・マネジメントを通して授業や学級経営を改善する教師
- ▶ 連携・協働の中核を担う教師
- ▶ フレキシブルに学び続ける教師

兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム

国立大学法人
兵庫教育大学



先端教職課程カリキュラム開発センター

.. アジャイル型手法によるカリキュラム開発 ..

2つの研究開発部門を設置 (専任・兼任合わせ38人の教員を配置)

- ▶ 先端教職科目研究開発ラボ
- ▶ 教職課程改善システム研究開発ラボ

**教員養成・
研修高度化
センター**

現職教員研修
(採用・研修機能)
に特化



大学

8大学

- ▶ めざす教師像
- ▶ 先導的・革新的な教職科目開発
- ▶ 5年一貫教育

上越教育大学 滋賀大学
岡山大学 鳴門教育大学
放送大学 立命館大学
芸術文化観光専門職大学



教育委員会・学校

7機関

- ▶ めざす教師像
- ▶ STEAM教育

兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会
堺市教育委員会 加西市教育委員会
南あわじ市教育委員会
兵庫県立豊岡高校 兵庫県立篠山鳳鳴高校



全国教育長・
学校長協議会 等

6団体

- ▶ 教職科目体系見直し など
- 全国都道府県教育長協議会
全国都市教育長協議会
全国町村教育長会
全国連合小学校長会 全日本中学校長会
全国高等学校長協会



民間企業

13社

- ▶ 先導的・革新的な教職科目開発
- ▶ 社会的インパクト評価ツール開発 など

Global Language Institute
Google intel LITALICO
MM総研 アワーズ キャリアリンク
錦城護謨 神戸新聞社
ダイワボウ情報システム 東京書籍
本郷さくら総合法律事務所 リクルート
(※ アルファベット・五十音順)



教員研修機関

2機関

- ▶ めざす教師像
- ▶ 先導的・革新的な教職科目開発

教職員支援機構 兵庫県立教育研修所



社会教育施設

1施設

- ▶ STEAM教育

篠山チルドレンミュージアム

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

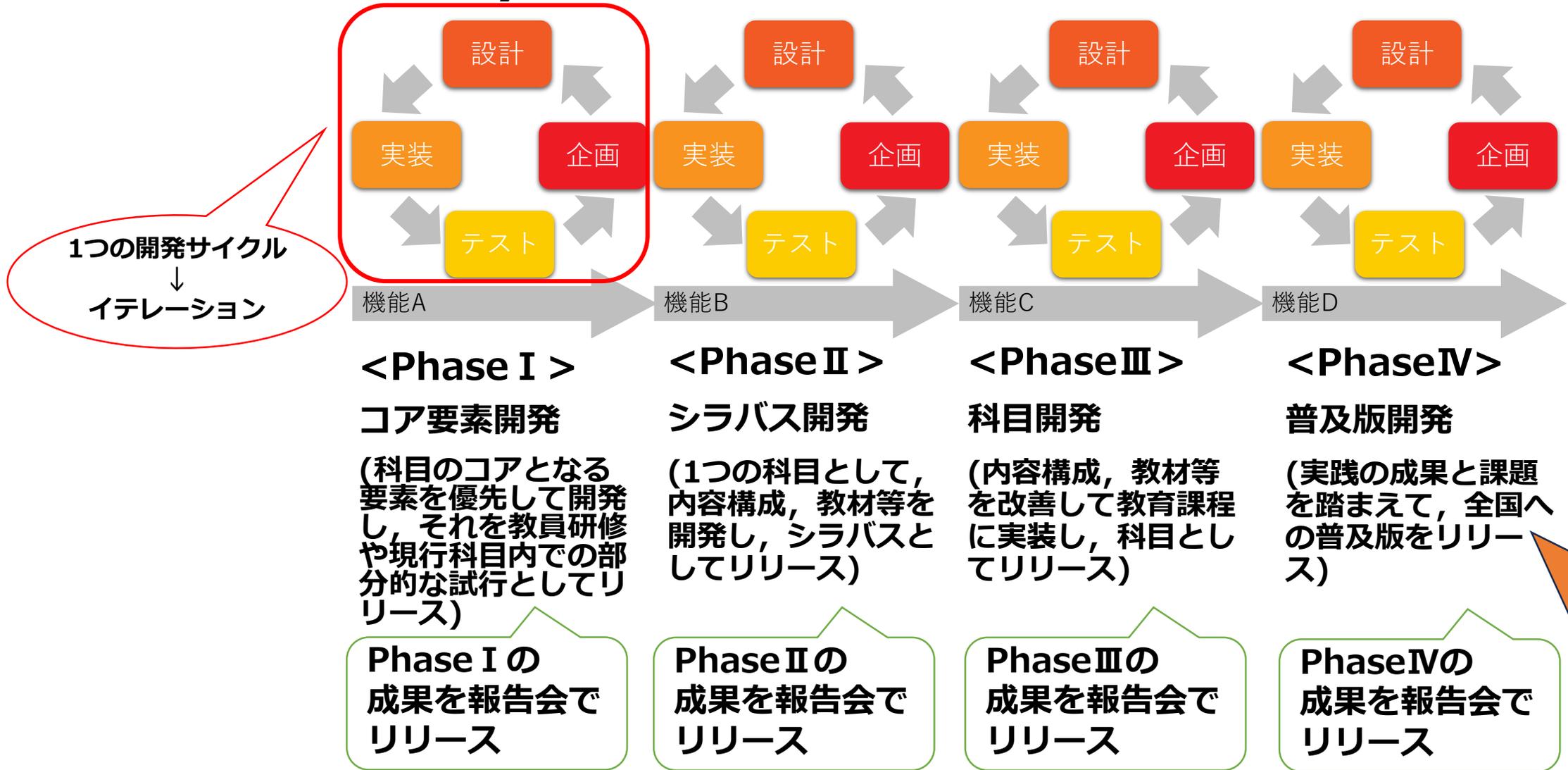
中央教育審議会



**①先導的・革新的な
教員養成プログラム・教職科目の研究・開発**



アジャイル開発/イテレーションを応用した科目開発





教職科目の研究・開発チームとプロセス

②先導的・革新的
教職科目の開発

科目群チーム
Ex. 学習観転換T. etc

ステークホルダーと
して外部機関連携

科目別スクラム

科目別スクラム

チーム間連携

科目群チーム
Ex. EdTech T. etc

科目別スクラム

科目別スクラム

チーム間連携

科目群チーム
Ex. Inclusive T. etc

科目別スクラム

科目別スクラム



各科目をアジャイル開発



各科目をアジャイル開発



各科目をアジャイル開発

スタンダードに基づいて、各
科目群に必要な要件を定義。

教員養成
スタンダード
開発チーム

①新・教員養成
スタンダードの
策定

グランドデザインに基づく
評価・調整・修正

外部機関連携による
ダブルループ化



先端教職課程カリキュラム開発センター (C-TEX)

2022.4.～ (事務組織：学務課、大学改革・広報室)

令和4年度概算要求組織改革分
多機関連携による「先端教職課程カリキュラム開発センター」の設置



先端教職科目
研究開発ラボ 2022.4～

教職課程改善システム
研究開発ラボ 2022.4～

兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学 コンソーシアム

2022.4.～ (事務局はC-TEX)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金 (国立大学経営改革促進事業)
民間企業等との連携による自律した学習者を育てる教師の養成プラットフォームの構築

教員養成・研修高度化センター (CReATE)

2018.4.～ (事務組織：教員養成・研修企画室)



Center for Research in
Advanced Teacher Education

教員養成・研修
デザインコア 2022.4～

先端教職科目研究開発ラボ

- 教員養成スタンダード開発チーム
- 学習観転換科目開発チーム
- **省察・探究学修検討チーム**
- 連携協働科目開発チーム
- STEAM教育開発チーム
- データサイエンスチーム
- EdTechチーム
- インクルーシブ教育チーム
- デジタル教科書チーム
- 大学・附属共同研究チーム
- **教職大学院共通基礎科目開発チーム**

教職課程改善システム研究開発ラボ

- FDデザインチーム
- 社会的インパクト評価ツール開発チーム
- 教員養成ネットワーク構築チーム



①-1 新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの策定

教職基盤作成の
プロセス

「令和の日本型学校教育」教師
に求められる資質能力の再整理
から概念を抽出

抽出した概念を
整理・統合・追加し
教職基盤19を確定

縦軸 = 常に働かせる教職基盤) と
横軸 = 場面や状況に応じて働かせ
る教職基盤に分けて配置

教職基盤に基づいて構成

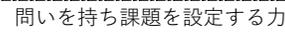
教職

教員
養成

教師としての専門性の継続的な向上

(Continuing Professional Development: CPD)

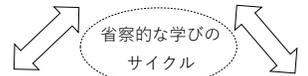
学校教育における事象を、「教職基盤」との関わり視点で捉え、多様
と他者と関わりながら、省察の実践を展開し、自らを高め続ける。



問いを持ち課題を設定する力
探究し実践する力
省察し改善する力

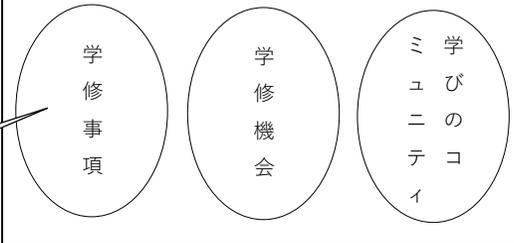


経験からの学び方を学ぶ



関わりを通して認識
や経験の幅を広げる

自己の傾向性を知り、
認識を問い直す



教師としての潜在的な資質能力

(Growth Potential)

- 縦軸 -

常に働かせる「教職基盤」

教師として
の基本的素
養

多様な関わり
を構築し
活かす力

子供を理解
する力

特別な配慮
や支援を必要とする子
供に対応する力

教科等の学習指導を展開する力

ICTや情報・教育データを利活用する力

学級経営・生徒指導を展開する力

- 横軸 -

場面や状況
に応じて働
かせる「教
職基盤」

新・スタンダード構造図 小中高校版

教職 ↑

教員養成

教師としての専門性の継続的な向上

(Continuing Professional Development:CPD)

(学校教育における事象を、「教職基盤」との関わり視点で捉え、多様な他者と関わりながら、省察的実践を展開し、自らを高め続ける)

【問いを持ち課題を設定する力】

【探究し実践する力】

【省察し改善する力】

項目	01-豊かな人間性, 教養, 人権意識	02-教職の意義と関係法規, 学習指導要領, 教育改革の動向等	03-学校の組織マネジメントと働き方	04-連携・協働, コミュニケーション, ファシリテーション	05-子供の発達と学習	06-ダイバーシティとインクルージョンの教育	07-学習者中心の学習観・授業観	08-教科等の専門性と教材研究	09-授業設計・実践・評価・改善	10-カリキュラムの開発・実施・評価	11-STEAM教育	12-ICTの活用	13-情報教育(含プログラミング教育, 情報モラル・セキュリティ教育)	14-教育データの活用	15-生徒指導・生活指導	16-学級経営, 特別活動	17-教育相談	18-キャリア教育	19-防災教育, 学校安全
A.教師としての基本的素養	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B.多様な関わりを構築し活かす力				◎	◎	◎													
C.子供を理解する力					◎	◎													
D.特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力					◎	◎													
E.教科・領域等の学習指導を展開する力							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F.ICTや情報・教育データを活用する力												◎	◎	◎					
G.学級経営・生徒指導を展開する力															◎	◎	◎	◎	◎

仲間
(学生コミュニティ)
大学教職員
附属学校園教員
地域・社会
etc

経験からの学び方を学ぶ



関わりを通して認識や経験の幅を広げ

自己の傾向性を知り、認識を問い直す

省察的な学びのサイクル

常に動かせる

場面や状況に応じて動かせる

(講義・演習科目)

(探究科目)

(実地教育)

概念やスキル, 思考・判断・表現力等を獲得する学び

課題を設定し, 探究する学び

実体験を通して省察的実践に取り組む学び

多様な学びの場と関わり
の機会

◎:必修及び選択科目として学修

☆:探究科目において興味関心に
応じて選択的に学修

◇:実地教育において必ず実体験
を通して学修
△:実地教育の状況により実体験
を通して学修

省察的実践の起点となる「教職基盤」

学修事項

学修機会

学びのコミュニティ

教師としての潜在的な資質能力:Growth Potential

小中高校版と幼稚園版の教職基盤の対応関係

小学校・中学校・高等学校版	幼稚園版
A.教師としての基本的素養	A.教師等としての基本的素養
02-教職の意義と関係法規, 学習指導要領, 教育改革の動向等	02-教職の意義と関係法規, 幼稚園教育要領等, 教育改革の動向等
03-学校の組織マネジメントと働き方	03-幼児教育施設の組織マネジメントと働き方
C.子供を理解する力	C.子供を理解する力
05-子供の発達と学習	05-子供の発達と学び
E.教科・領域等の学習指導を展開する力	E.領域をもとに保育を展開する力
07-学習者中心の学習観・授業観	07-子供中心の発達観・保育観
08-教科等の専門性と教材研究	08-保育内容の専門性と教材研究
09-授業設計・実践・評価・改善	09-保育計画・実践・評価・改善
F.ICTや情報・教育データを活用する力	F.ICTや情報・教育データを活用する力
13-情報教育(含プログラミング教育, 情報モラル・セキュリティ教育)	13-情報教育
G.学級経営・生徒指導を展開する力	G.学級経営・子供の自立を促す力
15-生徒指導・生活指導	15-子供の自立を促す支援と援助
17-教育相談	17-子育て支援
19-防災教育, 学校安全	19-防災教育, 安全教育

省察的な学びのサイクルと新TSS

省察実施科目

1年次「クラスセミナーII」

- ・ ねらい) 1年間の学びを振り返る。振り返りの仕方を学ぶ。
- ・ 方法) 1年間を振り返る語り合いや記述。

2年次「リフレクションミーティング」

- ・ ねらい) 2年間の学びを振り返り、3年次以降自分の得意をどう伸ばすかを考える。
- ・ 方法) TSSの確認と「教職基盤」を基軸にした記述。

3年次「初等実習リフレクション」

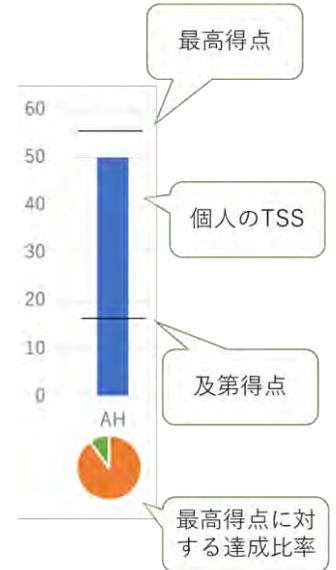
- ・ ねらい) 初等教育実習における経験を振り返る。経験からの学び方を学ぶ。これからの学びへの活かし方を考える。
- ・ 方法) 実習経験についての記述や発表・議論。

4年次「教職実践演習」

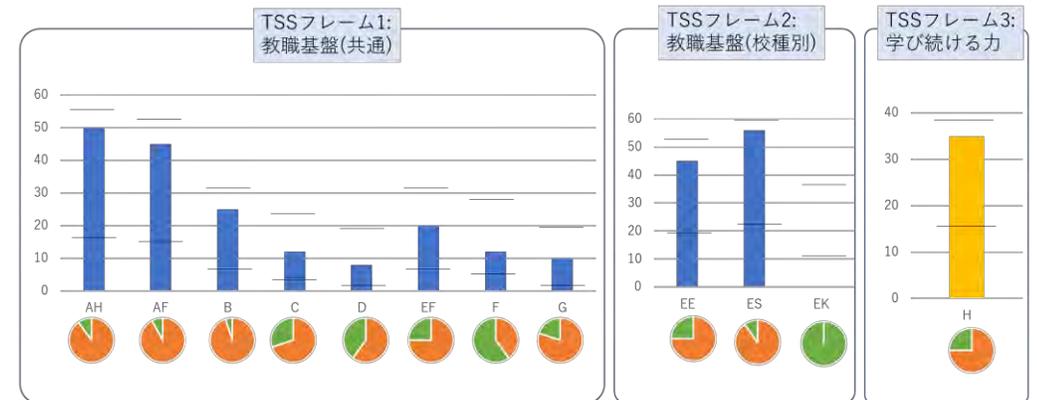
- ・ ねらい) 4年間の学びを振り返り、自分の得意やCPDの課題を考える。
- ・ 方法) TSSの確認と「教職基盤」を基軸にした記述。

新TSSの考え方

- ・ スタンドードに基づいて、学生が自らの学びをどのように積み上げてきたか（累積）を可視化する得点
- ・ 2年次、4年次の省察科目で使用



教科グループの場合





①-2 新しい教職科目として開設予定の科目 21単位
*：中高免には適用せず

	科目名	単位	授業方法	学年
教師の連携・協働	子どもの安全と学校組織	2	講演	1
	教師の連携・協働と学校経営	2	講演	3
	多機関連携と学校防災	2	講演	3
インクルージョン	インクルーシブ教育基礎論	2	講演	1
	インクルーシブ教育実践論	2	講演	2
学習観、授業観の転換	学習科学と授業のリデザイン	2	講演	2
	ラーニング・ファシリテーションの理論と実践	1	講演	2
EdTech	デジタル学習環境と情報活用	1	講演	1
	小学校プログラミング教育教材論*	1	講演	2
	情報モラル・セキュリティ教育論	1	講演	2
教育データサイエンス	教育データサイエンス	2	講演	1
STEAM教育	STEAM教育概論	1	講義	2
	STEAM教育演習	2	演習	2



科目名 (学校教育学部)	単位	授業方法	学年	連携企業等	Phase R4	Phase R5
子どもの安全と学校組織	2	講演	1	アワーズ、 本郷さくら総合 法律事務所、 兵庫県教育委員会など	Ⅱ	Ⅱ
教師の連携・協働と学校経営	2	講演	3		Ⅱ	Ⅱ
多機関連携と学校防災	2	講演	3		Ⅱ	Ⅱ
インクルーシブ教育基礎論	2	講演	1	LITALICO、錦城護謨	Ⅱ	Ⅱ
インクルーシブ教育実践論	2	講演	2		Ⅱ	Ⅱ
学習科学と授業のリデザイン	2	講演	2	アワーズ	Ⅱ	Ⅱ
ラーニング・ファシリテーションの理論と実践	1	講演	2		Ⅱ	Ⅱ
デジタル学習環境と情報活用	1	講演	1	MM総研、Google、 ダイワボウ情報システム、 東京書籍、神戸新聞社	Ⅱ	Ⅱ
小学校プログラミング教育教材論*	1	講演	2		Ⅱ	Ⅱ
情報モラル・セキュリティ教育論	1	講演	2		Ⅱ	Ⅱ
教育データサイエンス	2	講演	1	MM総研、Google、 ダイワボウ情報システム、 東京書籍	Ⅲ	Ⅲ
STEAM教育概論	1	講義	2	intel、 ダイワボウ情報システム、 錦城護謨、アワーズ	Ⅰ	Ⅱ
STEAM教育演習	2	演習	2		Ⅱ	Ⅱ



連携企業等との関わり方（令和5年度まで）

関わり方	企業名
連携授業の実施	ダイワボウ情報システム、MM総研、アワーズ、錦城護謨、LITALICO
環境整備の支援	ダイワボウ情報システム、Intel、東京書籍
学内研修	Google、南あわじ市教育委員会、東京書籍
シラバス作成の助言	MM総研、Intel、LITALICO
研究活動	東京書籍、加西市教育委員会

関わり方	企業名
クロスアポイントメント	篠山チルドレンズミュージアム、本郷さくら総合法律事務所、東京書籍
交流人事	兵庫県教育委員会

兵庫教育大学カリキュラムマップ ～FS科目及び学習指導科目を中心に～

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A.教師としての基礎的素養								
B.多様な関わりを理解し活かす力	子どもの安全と学校教育				教師の連携・協働と学校経営	多機関連携と学校防災		
C.子供を理解する力								
D.特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力			インクルーシブ教育基礎論	インクルーシブ教育実践論	特別支援教育概説			
E.教科・領域等の学習指導を展開する力	知識基盤形成 初等教科 X 中等教科 Y	学習観・授業観転換 学習科学と授業のリデザイン STEAM教育概論 STEAM教育演習 授業力基礎固め 初等教科 X 中等教科 Y 初等Y科 初等Y科 初等X科 初等Y科 初等X科 初等Y科 初等X科 初等Y科	学習者中心の授業デザイン	理論と経験に基づく授業のリデザイン	教科内容・方法の専門性向上			
FICTや教育データを活用する力	AI・データサイエンス基礎 情報処理基礎演習	教育データサイエンス 教育情報化概論 デジタル学習概論と情	小学校プログラミング 情報セキュリティ					
G.学級経営・生徒指導を展開する力								
実地教育	学校経営実習		フレンドシップ実習		初等基礎実習		中等基礎実習	学校教育応用実習(選択)
省察的な学び		クラスセミナーII		リフレクシオンセミナーII		リフレクシオン		

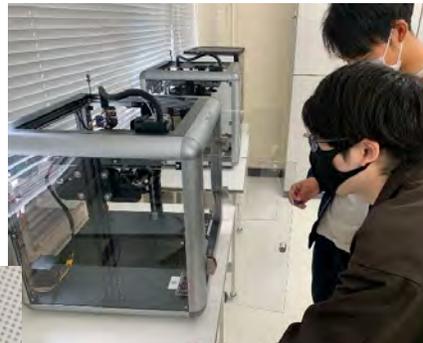
授業実践演習

FS科目 FS関連新設科目 FS関連既存科目 実地教育科目 その他の既存科目は省略しています。



学修環境の整備

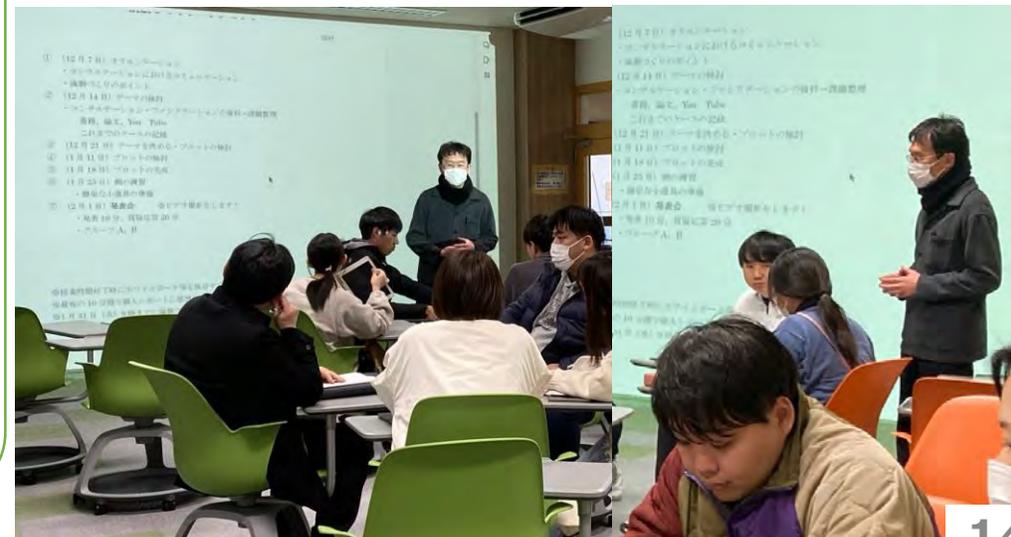
STEAM Lab 2022～ 大学と附属に設置



Intel, ダイワ
ボウ情報シス
テムとの連携
により
STEAM Lab
の整備(大学/
附属小中)

そのほか
共通講義棟に
Studio GIGA
の設置、小型
モニタと可動
式机椅子でグ
ループ学習し
やすい
教室に変更

Innovation Commons 2023～ 大学に設置



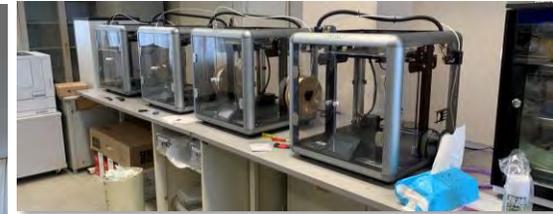


学修環境の整備

附属小学校STEAM Lab



附属中学校STEAM Lab





教師の連携・協働

- Phase I コア要素の開発
- Phase II シラバス開発
- Phase III 実装(R6~)
 - ✓ 「子どもの安全と学校組織」(1年生向け・R6開講)
 - ✓ 「教師の連携・協働と学校経営」(3年生向け・R8開講)
 - ✓ 「多機関連携と学校防災」(3年生向け・R8開講)

[学修の意義]

学校内・外のさまざまな関わりを題材に、連携・協働を学び、「多様な関わりを構築し活かす力」を伸ばす。

[今後の予定]

- ✓ 既存科目を活用した試行実践の積み重ねと、内容のブラッシュアップ。
- ✓ 「視点の違い」に接し、「揺らぎ」「広がり」を経験する機会の創出(演習の方法・教材の検討)。



2023 年度 授業の試行的実践

既存科目「教育制度論」を用いた
「教師の連携・協働と学校経営」の試行的実践

開催日時：2023年6月20日(火)・27日(火)・7月18日 14時50分～16時20分

場 所：共通講義棟 108 教室

実施方法：対面による実施・オンライン

講 師：三浦智子・神内聡・川上泰彦

主 催：連携協働科目開発チーム

学部3年生科目「教育制度論」の第11回・第12回を、フラッグシップ科目「教師の連携・協働と学校経営」の試行として実施しました。現行の「教育制度論」の内容として、学校内における教職員の構成と校内組織、相互の連携を取り上げるため、この内容を「教師の連携・協働と学校経営」で想定する方法(事例検討・演習)にて実施しました。

第11回(6月20日)は対面授業として実施し、前半は「演習編」として、保護者から我が子が「仲間はずれ」「嫌がらせ」を受けている、という相談があったという

対応を考える上での鍵となる「いじめ防止対策推進法」「いじめの防止等のための基本的な方針」について理解を促したほか、実際の学校におけるいじめ防止対策組織の整備も例示し、教育委員会レベル・学校レベルでのシステム整備と、その中での教員の役割について考察を促しました。

第12回(6月27日)は諸般の事情からzoomを用いたオンライン授業として実施しました。前半の「演習編」では、ある遅刻がちだった児童が、その後欠席が続く状況に至ったものの、保護者とは連絡がなかなか取れていない、という事例教材を用意し



インクルーシブ教育

- Phase I コア要素の開発
- Phase II シラバス開発
- Phase III 実装(R6~)

- ✓ 「インクルーシブ教育基礎論」 (1年生向け・R6開講)
- ✓ 「インクルーシブ教育実践論」 (2年生向け・R7開講)

[学修の意義]

インクルージョンのあり方について考え、児童生徒の多様性を認め、インクルーシブ教育を実践する素養を高める。

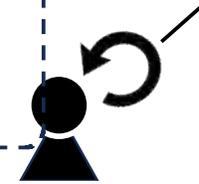
[今後の予定]

- ✓ R6より「インクルーシブ教育基礎論」「インクルーシブ教育実践論」を実装予定。

講義の
デザイン

アンコンシャス・バイアス
(無意識の偏見)

マイクロ・アグレッション
(無意識の小さな攻撃性)



無意識の偏見や加害性の自覚

↓
多様性を認める

↓
インクルーシブ教育を実践する力

既成概念に捉われない
学生同士の協働的な学び



試行的実践:「UDについて考えよう」

模擬授業場面をもとにした
指導計画の作成

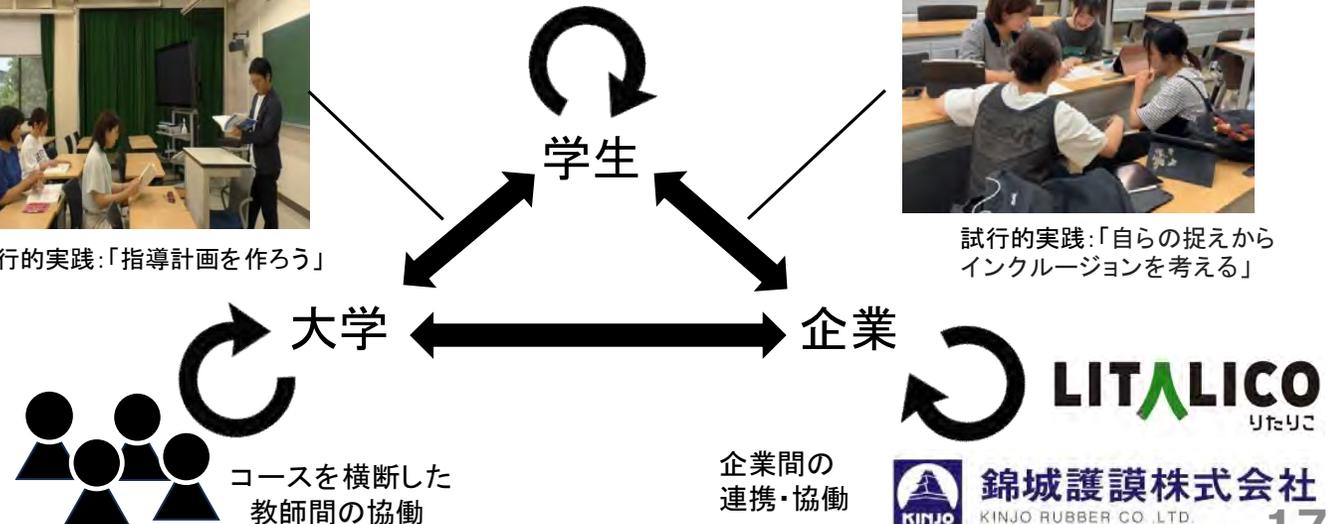


試行的実践:「指導計画を作ろう」

インクルージョンの
フロンティア企業・団体と
連携した学び



試行的実践:「自らの捉えから
インクルージョンを考える」





学習観・授業観の転換

- Phase I コア要素の開発
- Phase II シラバス開発
- Phase III 実装(R7~)

- ✓ 「学習科学と授業のリデザイン」(2年生向け・R7開講)
- ✓ 「ラーニング・ファシリテーションの理論と実践」(2年生向け・R7開講)

[学修の意義]

学習者中心の授業づくりとそこでの教員の役割や評価等について学ぶ。

[今後の予定]

- ✓ 反転授業等で使用する動画教材の作成。
- ✓ 学習観等の転換事例を収集・整理した汎用的学習材「事例集」の作成。
- ✓ 試行実践を行い、R7からの実装に繋げる。

2つの学習観転換科目は、各教科の教育法科目と密接に関連するため、それらの科目担当者とともに「学習観の転換について考えるコミュニティ」を新たに組織し、連携しながら開発を進めています。



第35回 CReATE Seminar

Society 5.0 研修会 (第 回)

「読んでいなくても参加できる」読書会〔主として「初等教科授業デザイン」担当教員向け〕を開催しました。

開催日時：2023年11月17日(金) 16:30~18:00

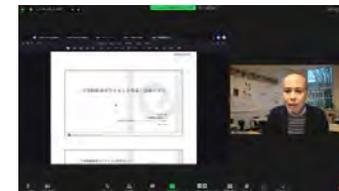
場 所：Zoom によるオンライン

参 加 者：「初等教科授業デザイン」授業担当予定の教員 他

主 催：C-TEX 学習観転換科目開発チーム・FD デザインチーム

共 催：FD 推進委員会

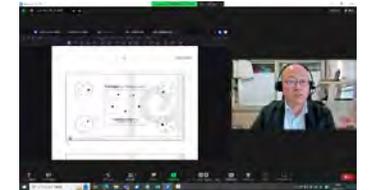
今回の「読書会」は、「学習観の転換について考えるコミュニティ」としての最初の取り組みでした。「学習観の転換について考えるコミュニティ」とは、学内で新たに組織された本学教員の協働的な学びの場で、そこでは、「学習観の転換とはそもそも何か」「転換された学習観のもとでいかに授業をリデザインしていくのか」「転換された学習観のもとでの新しい評価として、具体的にどのような方法がありうるか」等の問いをめぐって、学びを積み重ねていくことが計画されています。



参加者は、今回の課題図書である「森敏昭(監修) 藤江康彦・白川佳子・清水益治(編集) 『21世紀の学びを創る—学習開発学の展開—』 北大路書房」と

「大島 純・千代西尾祐司(編) 『主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック』 北大路書房」を手元に用意し、読書会に臨みました。

参加者の満足度は高く(4.44点/5段階)、事後アンケートの結果は良好でした。先行的に取り組んでいる大学等の事例を紹介してはどうか、各教科によって取り組みが異なる部分があるので、自分たちの取り組みを紹介し合ってはどうかといった今後の具体的な提案も寄せられました。



学習観の転換を企図した授業開発は、多くの大学の共有課題です。まずは学内で種々の試行を重ね、その後はコンソーシアムを構成する連携機関にも参加を呼びかけることを検討しています。



EdTech

- Phase I コア要素の開発
- Phase II シラバス開発
- Phase III 実装(R6~)
 - ✓ 「教育情報化概論」(既設科目を改訂)
 - ✓ 「デジタル学習環境と情報活用」
 - ✓ 「小学校プログラミング教育教材論」
 - ✓ 「情報モラル・セキュリティ教育論」

[学修の意義]

GIGA端末を活用した「学習基盤としての情報活用能力」の育成に向けた実践的指導力の習得を図る。

[今後の予定]

- ✓ R6より、「教育情報化概論」, 「デジタル学習環境と情報活用」を実装予定。
- ✓ 残る科目もR7より実装予定。



新設したStudio GIGA 302



Googleとの連携
ハンズオン研修

定員あり
超えた場合は抽選を行います

はじめよう！
小学校プログラミング教育

教員を目指す学部学生を対象に、小学校プログラミング教育の考え方と実践事例、Scratch、WeDoなどの基本的な教材を活用した授業デザインについて講習を行います。

日時	内容
令和5年 1月25日(水) 4時限目	<ul style="list-style-type: none"> 小学校プログラミング教育の考え方と実践事例 Scratchによるプログラミング体験 WeDoによるプログラミング体験

会場

キャリアセンターと
連携した試行

ダイワボウ情報システムとの連携
Chromebookの整備(大学/附属)



教育データサイエンス

- Phase I コア要素の開発
- Phase II シラバス開発
- Phase III 実装(R5~)
 - ✓ 前期「AI・データサイエンス基礎」
 - ✓ 後期「教育データサイエンス」

[学修の意義]

教育データの利活用に必要な統計的な知識・技能、思考力等の習得を図る。

[今後の予定]

- ✓ 学生の学修状況に対応した継続的な授業改善。
- ✓ 高校情報科の課程認定に伴うより高度な専門科目(選択)の開設。

教育データ特別セミナー

初めての教育データサイエンス

AI
EdTech
データサイエンス
分析
ビッグデータ
統計

GIGAスクールが注目され、切実に用いて、目的に、教

受講料 無料

対象 現職教員

表1.育成したい資質・能力。

A.教育データを活用する力。

- A-1:教育データを収集する力。
- A-2:教育データを可視化する力。
- A-3:教育データを分析する力。
- A-4:教育データを解釈する力。

B.AI等を用いた多様なEdTechを活用する力。

- B-1:AIの特性に対する基本的な理解。
- B-2:AIを用いたEdTechを活用する力。
- B-3:EdTechと直接指導とを効果的に組み合わせた指導を展開できる力。

C.教育データサイエンスの展望。

- C-1:教育ビッグデータの活用。
- C-2:学習分析(Learning Analytics)の理解。
- C-3:LMSの活用。
- C-4:eポートフォリオ等。

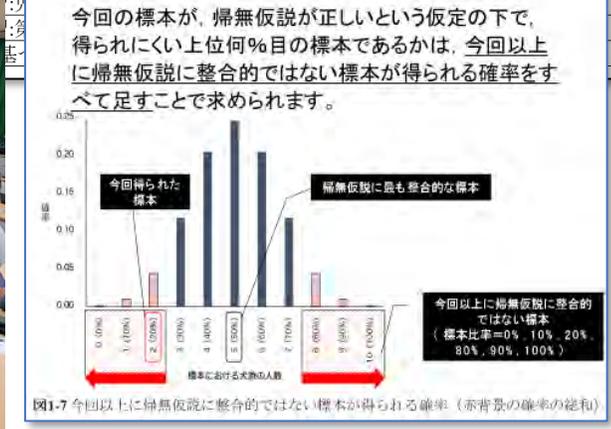
MDASHリテラシーレベルに認定



MM総研との連携

表3.「教育データサイエンス」のシラバス案

第1回	ガイダンス, 教育におけるデータの活用, 実務のイメージ
第2回	データの種類に応じた要約と可視化
第3回	統計解析の基礎理論(1): 確率, 期待値など
第4回	統計解析の基礎理論(2): 正規分布とその他の確率分布
第5回	推測統計の考え方
第6回	不偏推定量(標準誤差, 不偏分散, 標本標準偏差)
第7回	区間推定
第8回	統計的仮説検定の考え方
第9回	カイ2乗検定 [演習:児童生徒対象の意識調査の分析]



STEAM教育

- Phase I コア要素の開発
- Phase II シラバス開発
- Phase III 実践 (R7~)

- ✓ 「STEAM教育概論」：「総合的な学習の時間の理論と実践」の一部でコア要素を試行的に実施。
- ✓ 「STEAM教育演習」：「教養ゼミ」の一部クラスで試行的に実施。

[学修の意義]

各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育としてSTEAM教育の実施が求められている。STEAM教育科目では、STEAM教育の意義や教師としての在り方を学ぶ。

[今後の予定]

✓ R7より「STEAM教育概論」，「STEAM教育演習」を実装予定。



STEAM Labを
活用した授業

アワーズ，加西市教育委員会と
連携した授業実践
フィールドワークやワークショップ





②全国的な教員養成ネットワークの 構築と成果の展開



先端教職課程カリキュラム開発センター (C-TEX)

2022.4.～ (事務組織：学務課、大学改革・広報室)



教員養成フラッグシップ大学指定事業
兵庫教育大学
先端教職課程カリキュラム開発センター

先端教職科目
研究開発ラボ 2022.4～

教職課程改善システム
研究開発ラボ 2022.4～

兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学
コンソーシアム
2022.4.～ (事務局はC-TEX)

教員養成・研修高度化センター (CReATE)

2018.4.～ (事務組織：教員養成・研修企画室)



Center for Research in
Advanced Teacher Education

教員養成・研修
デザインコア 2022.4～

2022年3月

民間企業13社、国公立大学8大学、研究機関、教育委員会・学校、教育行政関係機関、NPOなど15機関で構成される「兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム」キックオフミーティング開催。

2022年5月～

民間企業と科目開発ミーティングを順次開始。CReATE Seminarへの参画。

2022年9月

新・教員養成スタンダードに関するパブリックコメントを学内および連携大学、教育委員会に対して実施。

2023年3月

令和4年度進捗報告、研修会を開催。

このほか、大学等とは覚書を交換済み。連携協定は順次締結し、年度内に完了。

一体的改革推進事業による科目開発研究。

2024年2月

令和5年度進捗報告会を開催予定。



教員養成フラッグシップ大学 社会的インパクト評価 ロジックモデル (案)

